

先進的警備システム実証実験検証結果の総評

1. 実証実験の背景

欧米諸国等において発生している最近のテロでは、公共交通機関、大規模集客施設等のいわゆるソフトターゲットが標的となる傾向にあることを踏まえ、関係省庁は、ソフトターゲットに対するテロについて、施設管理者との連携や訓練の実施、必要な警戒警備体制の構築、効果的な装備資機材の導入等により警戒強化を推進しています。

国土交通省は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、バスターミナル等、不特定多数が集まるソフトターゲットに対する警戒強化を喫緊の課題と捉え、先進的警備システム実証実験を行いました。

2. 実証実験の目的

不審人物や顔認証、不審物を自動で検知できる「先進的警備システム」のバスターミナル等における導入・普及促進に向けた方策の検討、課題の抽出等を目的に実施しました。

3. 実証実験の概要

実証実験は、令和2年2月14日から21日の間で、東京駅八重洲南口バスターミナルの一部区域において、3事業者により実施しました。

実験の方法としては、不審人物や顔認証、不審物の検知が可能なカメラの設置やシステム等を用いた検知を行い、参加事業者による模擬行動を実施しました。

4. 参加事業者（五十音順）

セントラル警備保障株式会社、総合警備保障株式会社、パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社

5. 実証実験検証結果の総評

バスターミナル等の警戒強化にあたっては、利用者の流動性や利便性の低下を最小限に抑えつつ、不審人物、不審物を自動で検知し、テロの未然防止に効果があるとシステムが求められています。

今回の実証実験では、昨年に引き続き、参加した各事業者のカメラの機能やシステム等を用い、人の往来の激しい東京駅の八重洲南口の屋外で実施しました。今回の実証実験においても、参加した各事業者の先進的警備システムについて、不審物・不審者を自動で検知する機能を有していること等が確認できました。

また、参加した事業者においては、実際に屋外のバスターミナルで実験的にシステムを稼働させたことにより、バスターミナルの特性などが把握できたことから、今後の更なる性能向上に寄与するものと考えます。

本実証実験で得られた検証結果については、同システムの導入促進のため、有効活用されることを期待しています。